６　　女の 　　　　　　　　　　　　　　　　　　連用形接続の助動詞①

いと近きほどのことに、身をアいやしく富める男あり。家をあまた持ちＡたりけるが、家ごとに女をかたらひ置きて家の内のことをうちあづけける。年ごろの妻なりける者を、今の新しき家の女そねむ心ありて、さまざまにイ不思議なるわざをなむしける故にや、にはかに失せＢにけり。この家にも主なくてはウあしかりぬべしとて、女をたづねて置きたりければ、これは年も若く、見目もことざまもわりなかりけるうへに、物呪ひのことあらはれければ、今の妻にのみ添ひゐて、もとの妻のもとにはエ稀にも通はＣずなりにけり。年ごろの妻を失ひたるそのかひもなし。ますます思ひにのみ沈みけり。おのづからもとの妻のもとに行きＤたれば、また今の妻あるまじきことに思ひけるほどに、互ひにそねむ心深かりける思ひや報いけむ、この男あやしきさまにてにはかに失せにけり。

【本文チェック】

①　ア～エの用言の、活用の種類・文中での活用形を（　）に書きなさい。

ア（　　　　　　活用　　　　形）　イ（　　　　　　活用　　　　形）

ウ（　　　　　　活用　　　　形）　エ（　　　　　　活用　　　　形）

②□Ａ～Ｄの助動詞の、文法的意味・文中での活用形を〔　〕に書きなさい。

Ａ〔　　　　　・　　　　形〕　Ｂ〔　　　　　・　　　　形〕

Ｃ〔　　　　　・　　　　形〕　Ｄ〔　　　　　・　　　　形〕

③傍線部「もとの妻」と同じ人物を指す語句を、これより前の本文から五字前後で探し、□で囲みなさい。

【語彙力 ✚】

問１　次の語句の意味について、空欄を埋めよ。＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

１　いやし〔１〕　　 ①（　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　 　②下品だ

２　失す〔３〕 　　　①（　　　　　　　　　）

　　　　　　　　　　 ②消える

問２　次の傍線部の意味として最も適当なものを選べ。

１　うちつけに、深からぬ心のほどと見たまふらむ、ことわりなれど、年ごろ思ひわたる心のも聞こえ知らせむとてなむ。（源氏物語）

ア　若いころから　　イ　長年

ウ　今年いっぱい　　エ　このごろ

（　　　）

２　その時おのづから事のたよりありて、津の国の今の京に至れり。（方丈記）

ア　ありのままに　　イ　もしも

ウ　たまたま　　　　エ　自然に

（　　　）

【文法力 ✚】

問３　次の傍線部の助動詞の、文法的意味と文中での活用形を答えよ。

１　泣く泣く告げたりければ、（伊勢物語）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

２　帰りたければ、ひとりつい立ちて行きけり。（徒然草）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

３　髪もいみじく長くなりなむ。（枕草子）

文法的意味（　　　　　　　　）　活用形（　　　　　　　　）

問４　次の傍線部を現代語訳せよ。

１　知らぬ道のましく覚えば、「あな羨まし。などか習はざりけむ」と言ひてありなむ。（徒然草）

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

２　「犬なども、かかる心あるものなりけり」（枕草子）

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

問５　次の文の「ぬ」を文法的に説明し、現代語訳を完成させよ。

　夜になして、京には、入らむと思へば、急ぎしもせ①ぬほどに、月出で②ぬ。（土佐日記）

　　夜になるのを待って、京には、入ろうと思うので、急ぎもし〔　①　〕うちに月が出〔　②　〕。

①（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・訳　　　　　）

②（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・訳　　　　　）

【探究】調べてみよう

問６　男女間の愛情に関わる嫉妬や恨みというものは、昔も今も恐ろしいものである。嫉妬や恨み、呪いなどについての話が含まれる古典作品を調べ、特に印象に残った話や場面を挙げてみよう。

作品名（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

〔

〕

【解答】＊〔数字〕はノート本冊での本文の行数を表す。

【本文チェック】

①　ア＝シク・連用　イ＝ナリ・連体　ウ＝シク・連用　エ＝ナリ・連用

②　Ａ＝存続・連用　Ｂ＝完了・連用　Ｃ＝打消・連用　Ｄ＝完了・已然

③　（今の）新しき家の女〔２〜３〕

問１　１＝身分が低い　２＝亡くなる

問２　１＝イ　２＝ウ

問３　１＝完了・連用形　２＝願望・已然形　３＝強意・未然形

問４　１＝どうして習わなかったのだろうか

　　　２＝あるものなのだなあ

問５　①＝打消の助動詞「ず」の連体形・ない

　　　②＝完了の助動詞「ぬ」の終止形・た

問６　観点　『源氏物語』『蜻蛉日記』『伊勢物語』などが挙げられる。どんな話か読んでみよう。

【現代語訳】

問２　１　突然で、深くはない心の様子とお思いになるだろう、もっともだが、長年思い続ける（この私の）胸の内も申し上げ知らせようと（思って）。

２　その時たまたま物事のついでがあって、摂津の国の今の京（＝福原）に行き着いた。

問３　１　泣く泣く告げてしまったので、

２　帰りたくなると、ひとりぷいと立って出ていった。

３　髪もきっとたいそう長くなるだろう。

問４　１　（自分の）知らない芸道について（他の人が通じていることが）羨ましく思われるならば、「ああ羨ましい。（自分は）どうして習わなかったのだろうか」と言ってすませるのがよい。

２　「犬などにも、このような心があるものなのだなあ」